

農村医学用語集改訂第3版の発刊にあたって

初版の農村医学用語集は、農村医学用語委員会（1980年10月の第41回理事会で発足）において策定した①農村医学において使用されている用語およびこれと関連の深い用語を選定する、②農村医学用語集は日本医学会用語委員会「医学用語辞典」の編集方針に準拠する一等の大綱に沿って1995年に発刊された。用語委員会の林雅人委員長は用語集の序文に、登録された膨大な用語の見直しが繰り返しなされたと記している。どれだけの努力を費やされたかは筆舌に尽くしがたい。初刊から4年後の1999年に発行された改訂第2版は、編集委員会（真田勝弘委員長）が中心となって新たな用語の採用および第1版の見直しが行われた。

今回の改訂第3版は、第2版発刊以来16年ぶりとなる。藤原秀臣理事長（当時）の意を受け、2013年7月の編集委員会において早川富博編集委員長（当時）より、懸案である用語集の見直しを行なうことが提案され、8回にわたる編集委員会の検討を経て、2015年1月の第160回理事会において承認をいただいた。今回の改訂は、初版の大綱に則り、第59回および第60回学術総会における一般演題抄録のキーワードから、農作業災害、農薬中毒、食と生活、福祉関連、地域医療、チーム医療（ICT, NST, 褥瘡）、看護、公衆衛生など多岐にわたる用語を抽出し、新たに222語を追加し、現行用語の見直しも行なった。合わせて巻末に掲載している行政関係、JA関係、法律関係の名称も必要に応じて変更した。

改訂第3版は、本号の掲載と合わせて本学会ホームページにも掲載するが、2014年4月から「日本医学会医学用語辞典 Web版」が一般公開されているので、これらをご活用されることを期待する。まだまだ用語は不足かもしれないが、今後更により良いものに育てていただきたいと願っている。初版・第2版の両委員長が、述べておられるがごとく、言葉は生きていくものであり、今後も見直しは常に行わねばならない。本改訂第3版も以前と同様に、日本農村医学会の連綿とつづく歴史のなかで、次の改訂のための出発点であろう。

最後に、改訂にあたりご協力と多大なご尽力をいただいた編集委員各位を始め多くの先生方に対し、改めて謝意を表する次第である。特に、無理なご依頼に快く応じて頂いた、塩飽邦憲先生（島根大学）、埴田和史先生（滋賀医科大学）及び上原明子先生（佐久大学）には、編集委員会を代表してここに深甚なる謝意を表する。

2015年5月

日本農村医学会

編集委員長 山本直人